



「昨年11月は友覧船‘Friendship’号に乗り、12月にはさらに‘Partnership’という新たなミッションが加わりました。今年の交流はいつするんですか？私たちの役割は何ですか？」3年生の、次は何をしでかすかわからないという不安をこちらが感じるほどの健康さが、上気した頬の薔薇色を際立たせている。

一方で、日程調整が難しいのがオンライン交流。昆明と本校の授業時間割の関係で、金曜日の午後（本校では、2年生の授業時間）にしか実施できない。かといっていきなり2年生が交流するには荷が重い。そこで今回は特別に国際理解コース3年生4名が参加（右表参照）。

「中国の春節」は、いわゆる旧正月にあたる。その様子は、ほとんどの生徒がテレビやインターネットで見たことがある。故郷に帰ってくる人もいれば、国外に旅行に行く人もいる。また、旧正月という暦の性質上、毎年、日にちが変わる。今年は2月1日が新年最初の日にあたり、その前日には大掃除、そして2月1日の0時に爆竹や花火を盛大に鳴らす。除夜の鐘で厳かに新年を迎える人が多い日本とは異なる。ただ日本と同様、新年には正月料理を食べ、子供はお年玉を手にするとのこと。昆明からは「日本のお年玉はお金なのか品物なのか？」という質問があった。キャッシュレス化が進む中国では、お年玉も現金なのだろうか。中国では帰郷した際にお土産を買ってきてそれをお年玉代わりにするのだろうか。いずれにせよ、中国と日本の、年の変わり目の行動における共通点や相違点がわかり興味深い内容となった。

「お盆」の説明では、先祖の霊を自宅に迎えて一緒に過ごすという内容を、イラストを用いて昆明にわかりやすく解説。すると昆明からは「仏壇はどこにもあるものなのか？」という質問が。これは、いい質問。仏壇は仏教国のどこにでもあるものではなく、日本独自の文化である。仏教国タイでも、仏壇を自宅に置く文化はないと聞いたことがある。

第2グループでは、昆明から少数民族、彝(イ)族の伝統行事「松明祭り(Torch Festival)」の紹介があった。五穀豊穡を祈り、火で害虫を追い払う祭りとのこと。豊作が目的であるから夏の行事。そう、昔は農作物の害虫対策は「神頼み」しかなかったのだ。夜に火が赤々と燃えその周りを人が囲む画像を見せてもらったが、それはまさにキャンプファイヤー。なおこの祭りの件で、本校卒業生から情報提供があった。稲沢市祖父江町にもこれと似た行事があるという。「虫送り(むしおくり)」がそれで、稲の害虫を追い払い豊作を祈願するもの。毎年7月上旬に行われ、燃え盛る松明を田んぼに向け害虫を追い払う。以前は、全国のあちらこちらでも行われていたが、農薬が普及することで次第に廃れていった文化なのかもしれない。とにかく、こんなに近くに似たような行事があったことに驚きであった。当日の「松明祭り」の説明の後で得た知識であったため、「祭りの後」ならぬ「後の祭り」。いかに足元・地元を見ていないのか反省しきりである。他方、異文化を知ることは、自文化を知ることにつながることを再認識した。

「ひな祭り」では、その由来やそれに因んだ食べ物などを丁寧に説明できた。桃の花がとても縁起のいいものだという事は中国と共通であり、お互いに興味をもって色彩豊かな画像を楽しんだ。昆明からは「ひな人形は何歳まで飾るのか？」という、答えに窮する質問があった。

「鯉のぼり」の説明も秀逸で画像の選択もよかった。ここでも発表者は、吹き流しの色が中国の五行説に由来している「五色」から来ていて、魔除けの意味をもっていることにふれていた。上級生の面目躍如である。

このように3年生は、日本文化の紹介に関して教員からの指示をほとんど仰ぐことなく自分で情報を収集し、自分で英文を書き、そしてそれを自分が英語で発表するなど、主体的に交流を実践し、後ろ姿で2年生にいい見本を示したのである。冒頭の問いの答えが出た。‘Leadership’という名前です。

昆明第1グループ(2名)「中国の春節」について
津島第1グループ(2名)「日本の年末年始・お盆」について
質疑応答
昆明第2グループ(2名)「彝(イ)族の松明祭り」について
津島第2グループ(2名)「日本のひな祭り・鯉のぼり」について
質疑応答

